

平成27年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

学校教育目標	教育基本法と学校教育法に基づき、人間性豊かで創造力に富み、社会的使命の自覚を持つ健康で実践力のある工業人の育成を期す。
--------	---

1 明瞭で積極的な学校運営
2 学習指導の充実
3 生徒指導の充実
4 進路指導の充実
5 地域産業界と連携した工業教育の推進
6 危機管理の徹底
7 キャンパス制の推進

達成度	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

目指す学校像	(1)常に前進する学校 (2)地域に根ざし、地域に開かれた工業高校 (3)一人ひとりの個性を生かし、将来、工業の各分野で活躍できるスペシャリストを育てる学校
目指す生徒像	(1)基礎学力を身に付け、ものづくりができる工業技術者 (2)礼儀正しく、勤労意欲に富む生徒 (3)自己を理解し、自己実現に向かって努力する生徒 (4)豊かな感性と社会性、国際感覚を持つ生徒
目指す教師像	(1)使命感を自覚しプロ意識が高く、常に学び続ける教師 (2)生徒、保護者、地域社会より信頼される教師 (3)生徒の能力と個性を生かし、社会で活躍できるスペシャリストを育てる教師

自己評価						
番号	評価項目	具体的方策	指標・基準等	目標の達成状況、達成に向けた取組み状況と分析	達成度	成果と課題 次年度に向けた改善策
1	学校運営	①「目指す学校像・生徒像・教師像」の実現に向けて、全職員・全生徒の共通理解の下、協働実践による明るく生き生きとした教育活動の実現を目指す。 ②開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域の連携を深める。 ③教職員一人ひとりが自己研鑽に励み、教員力の向上に努める。	教職員による自己評価が3.0以上となること。	学校評価の結果は、PTA新聞やホームページで公表し開かれた学校づくりに努めた。また、全教員の相互授業参観と管理職教職員面談を通して教員の指導力の向上に努めた。	B	学校評価や教員評価の趣旨に対する理解が進み、前向きに捉える教員が多くなった。指導力向上のために研修会への積極的な参加と自己の振り返りを進めていく。
2	学習指導	①面白く、わかりやすい授業の工夫などに取り組み、授業改善を進める。 ②基礎学力定着、学力向上の取組みを充実させ、生徒の主体的な学習を促す。 ③言語活動、読書指導を充実させ思考力、判断力、表現力を高め、人間力豊かで国際的視野を持つ生徒を育成する。 ④資格取得の取組みを充実させ、技能検定合格率60%以上を目指す。 ⑤身につけるべき学力の数値化に向けて取り組む。	教職員による自己評価が3.0以上となること。	普通教科と専門教科の連携による基礎学力の向上のための研修会を実施した。人間性豊かな生徒を育成するための読書指導に関して、読書活動優秀実践校の文部科学大臣表彰を受けた。また、技能検定に合格に向けた指導に努め、合格率は66.2%であった。	C	基礎学力を充実させるために、普通教科と専門教科の連携による組織的対応を拡充していく。また、家庭学習の習慣化など生徒の学ぶ意欲を惹き出す工夫が必要である。技能検定の合格率の向上と難関資格取得に挑戦する生徒の育成を図っていく。
3	生徒指導	①生徒一人ひとりの規範意識と社会力を高め、家庭・地域及び関係機関との連携を密にして、問題行動やいじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ②キャリア教育の視点により、生徒一人ひとりの特性に応じた日常生活指導と教育相談活動等の充実を図る。 ③全国に発信できる「ものづくり」や研究活動、全国に挑戦できる部活動を推進する。 ④特別支援教育を推進して、個に応じた支援体制を充実させる。	教職員による自己評価が3.0以上となること。	いじめアンケートを学期ごとに実施し、個別面談やキャリア面談などを通して教育相談の充実を努めた。人間関係構築を促す契機とするために1学年で構造的グループエンカウンターを実施した。また、部活動の活性化を図るために、部活動の統廃合を進めた。特別支援教育や特別な配慮が必要な生徒への支援と組織的対応に努めた。	B	1学年及び各学期始めに、人間関係構築を促す機会を拡充し、いじめの未然防止対策を図っていく。ものづくりや部活動を通して、リーダーとなる人材の育成に努める。
4	進路指導	①進路希望を高く持って、それを達成できる人材を育成する。 ②キャリア教育総合実践プログラムに基づき、計画的、組織的、継続的なキャリア教育の充実を図る。	教職員による自己評価が3.0以上となること。	キャリア面談や企業開拓を進めることで、就職希望者と進学希望者の全員が進路の内定を得ることができた。	B	企業や大学見学の時に、本校卒業生からの話を聞く機会を設けるなど、学習意欲・就業意識を高めるための積極的な働きかけを進めていく。
5	地域と連携した工業教育	①資格取得を目指し、知識、技術、専門性の高い人材を育成する。 ②ものづくり教育の質を向上させると共に、新たな時代の要請に応え得る、寒河江らしい工業教育についても検討する。 ③課題研究の充実を図り、課題研究校外発表会等を通して、生徒に誇りを持たせられるように努める。	教職員による自己評価が3.0以上となること。	地域と連携して、インターンシップ・スキルアップ講演会・企業見学・課題研究発表会など、多くの事業を実施した。全国大会に出場することはできなかったが、ロボットコンテストなど、ものづくり教育の質の向上に努めた。課題研究発表会では、1・2年生に目標と意欲を持たせることができた。	B	地域企業との連携を進め、工業研究部や課題研究の充実とレベルアップを図り、全国大会への活躍を目指していく。また、課題研究発表会への地域・保護者の参加を増やす工夫が必要である。
6	危機管理	①防災意識の徹底、不審者への対応及び学校情報管理の理解と徹底を図る。 ②生徒・教職員の心と体の健康管理に努める。 ③公金等各種会計処理の適正化に努める。	教職員による自己評価が3.0以上となること。	緊急連絡メールシステムによる災害時の連絡体制の充実を図りながら危機管理マニュアルの点検を行った。	B	大規模災害時の対応について、寒河江市役所や隣接各校との連携を協議していく。また、メールシステムの活用により会員登録を拡大していくことが必要である。
7	キャンパス制	①左沢高校と協力し、キャンパス制の連携・交流を充実させる。	教職員による自己評価が3.0以上となること。	左沢高校とのキャンパス制事業を拡充させた。 ・生徒交流事業(講演会、生徒会交流、ホランティフ活動等)・職員研修会事業・相互資格取得支援・合同学校説明会を実施した。	B	生徒交流事業、職員研修事業をさらに拡充していく。

学校関係者評価	
意見・要望・評価等	
○	学校のPRについては、ものづくりの素晴らしさや寒河江工業の素晴らしさを実際にやっている在校生や先輩に話してもらおう方がよいのでは。
○	校舎が古いのはデメリットであり、地元の卒業生、地域市民、行政も巻き込みながら組織を作って動いていくことも必要ではないか。
○	ものづくりの素晴らしさをアピールするのに映画を作るのもよいのでは。ただ話合っているだけではだめで、動く母体を作らなければ進まない。
○	キャンパス制の取り組みを一生懸命やっているが、実態に合わないのでは。子ども達のためになっているのか疑問であり、寒河江工業高校として、他にやりたいことがいっぱいあるのでは。
○	子ども達には、まず挑戦させて、挫折や失敗を大いに経験させて頂きたい。そこからどう立ち直るかを体験させることが大事である。
○	先生方には、あいさつで元気を与えてやってほしい。そのことでコミュニケーションもとれるようになる。また、常識的な精神論や倫理観も教えていただければ。
○	先生方には、涙を流して授業をして欲しい。熱く語って欲しい。大人が感動している姿を子ども達に見せることも大事なのでは。
○	最近特に、「自分の中にじこもり」人前で自由な会話や意見を述べるのが苦手な人が増えています。その結果、ウツ的になりがちのため、コミュニケーション力や人間関係へ配慮した指導を強化して頂きたい。
○	少子化により大学自体も高校へ営業活動を行っている。たとえ県外へ進学したとしても郷土へ戻ってくるように、あるいは県外で社会人を養ってから山形に戻ってくるように熱心に語りかけて頂きたい。

自己評価及び学校関係者評価の改善点、他
 学校関係者評価委員の皆様から、目標をほぼ達成している評価を得ることができた。会議においても学校の取組みに対する温かい励ましをいただいた。今後、事前配布する資料をわかりやすく工夫するなど、多くのアドバイスが得られるようにしたい。